

ここまでやっている寄生虫検査 病院編

◎川井 孝太¹⁾
磐田市立総合病院¹⁾

【はじめに】

近年、海外渡航の増加や在日外国人増加、食生活の変貌などによる日本の国際化がすすみ、静岡県も同様である。また患者背景として魚類を生食している患者の存在も寄生虫感染症の増加の要因である。これまで当院（市立基幹病院）臨床検査技術科での寄生虫検査の実態を報告する。

【検査方法】

①直接塗抹法,②ヨード・ヨードカリ染色,③ホルマリンを使用した MGL 法。

当院では、感染対策の目的もあり生理食塩水ではなくホルマリンでの MGL 法を採用している。

【実態】

2019 年～2023 年（7 月現在）まで 25 件/年、寄生虫検査を実施している虫卵検査としての検体種としては便検体,下部内視鏡検査における生検組織検体,肝膿瘍穿刺液,その他検体が提出されている。虫体が提出されることもある。診療科としては、①消化器内科,②呼吸器内科,③消化器外科,④小児科が主となっている。条虫類・蠕虫類では、①日本海裂頭条虫,②鞭虫,③鉤虫,④日本住血吸虫、原虫では、赤痢アメーバ、虫体では、①日本海裂頭条虫,②クジラ複殖門条虫,③糞線虫、衛生動物では①マダニ,②コナヒョウヒダニなどを検出している。虫体検査では、遺伝子検査を実施するために外部施設へ検体を搬送するための処理や写真撮影なども臨床からの要望があれば実施している。

【昔と今】

昔の検査室では、寄生虫検査の経験豊富な検査技師が在籍し、外注検査でも寄生虫抗体検査も実施しており、検査結果に迷った場合に相談や代替え検査などをあつた。知識面では実習を含む研修会で実際の寄生虫に触れる機会は少ないながらもあつた。しかし、現在では、外注での抗体検査も実施されておらず寄生虫検査経験豊富な技師も退職してしまっているのが現状となっている。若手技師では、虫卵陽性をまったく経験していないというのが多くなっている研修会もコロナ渦ということで Web 研修会主体となってしまう実習形式の研修会も少なくなってしまう寄生虫に触れる機会が極端に少なくなってしまう。このような現状で、寄生虫検査そのものを外注化している施設も増えてきている。

【考察】

寄生虫検査を院内で実施することにより、臨床からの検体採取に関する問い合わせや検査に迅速に対応できる。特に、赤痢アメーバは検体採取から運搬まで 37℃で加温するため検体採取現場まで技師が出張し検体採取の補助をし、検査を実施できるメリットがある。また、寄生虫検査は幅が広く衛生動物（ダニなど）も含まれる。

ダニなどは、患者が救急搬送された場合は迅速な対応が求められる。寄生虫検査は技師の技量が問われる検査であり、臨床と連携していくためには技師間の目合わせや知識の差を補っていく必要があると感じる。

磐田市立総合病院 臨床検査技術科 0538-38-5000（内線：2703）